

成果の説明書

(氏名) 関口 智子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>英語カリキュラムの運営</p> <p>(1) オンライン授業の導入</p> <p>2020 度は、新型コロナの感染拡大により、急遽オンライン授業へ変更となった。そのため、対面授業とは異なる授業運営が必要となり、共通シラバスを詳細に作成した。春学期開始にあたり、英語の非常勤講師を対象に Zoom による説明会を開催し、周知を行った。オンライン化が進んだことで、今までメールが主要な伝達手段であったが、全講師が Teams に参加することにより、重要な情報を逐次アップデートし、共有できるようになった。</p> <p>(2) 非常勤講師の対応</p> <p>オンライン授業に対応できないという理由等で、数名の非常勤講師から出講辞退、または休職の申し出があり、至急対応可能な講師を配置し対応した。</p> <p>(3) 必修英語科目の試験実施方法変更</p> <p>必修英語科目の General English (GE) I-IV では、学期末に 1 分間のスピーキングテスト(Common Speaking Test, CST)を課している。本年度はオンライン授業への変更にともない、CST も Zoom での実施となった。学期末の試験前に、CST の Zoom での実施手順書を作成し、担当教員対象のワークショップを遠隔で 2 回設定し、どちらかへの参加を求めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>通訳コンテスト出場に向けた指導</p> <p>毎年 11 月末から 12 月初旬に「学生通訳コンテスト」を開催している名古屋外国語大学より、コンテストの推薦枠 (1 名) をもらい、本学の学生 1 名を推薦した。2020 年度は、11 月 28 日 (土) 開催で、テーマは「ポストコロナの世界を生きる：パンデミックからの教訓」であった。今年度はコロナ禍の影響により、初の Zoom 開催という例年とは異なる形態での開催となった。コンテスト出場準備にあたり、今年度は明海大学の学生とスタディーグループを作り、週に 2 回両校の担当教員が Zoom で指導を行った。また、学生だけで勉強会を設けるなど、大学の垣根を超えて共に勉学し、他大学の学生と交流するよい機会となった。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>2017 年度に開始された英語カリキュラム一元化も 5 年目を向かえた。今後も新たな非常勤講師の採用、シラバスおよびテキストの再検討、クラス担当者の配置など、現行カリキュラムが円滑に実施されるよう取り組みたい。</p> <p>コロナ禍で、国内外の学会もオンライン開催となり、例年とは異なる研究環境となった。今年度は、オンライン授業への対応が主となり、思うように研究活動が進まなかった。次年度は、研究活動に積極的に取り組み、環境が改善されれば国内外の学会に参加するつもりである。</p>	